

一般質問発言通告要旨

通告者 1番 門脇晃幸

仙北市公共施設等総合管理計画・個別施設計画

1 学校施設長寿命化計画

- (1) 学校施設長寿命化計画の優先度1群に（概ね5年以内）に長寿命化改修工事の実施を検討する必要がある。としているが、具体的検討に入ったのか、又、その内容を伺う。
- (2) 整備優先順位に従った今後5年間の整備計画シミュレーションを作成しているが、整備計画1年目とはいつを指すのか。
- (3) 施設の保有総量の整理が望ましい状況にあり、財政や教育環境の在り方を考慮するとともに、児童生徒数の推移を注視しながら、施設の適正配置等について併せて検討していく必要がある。としているが、具体的検討に入ったのか、又、その内容を伺う。

2 延べ床面積縮減とランニングコスト削減

- (1) 旧角館総合病院の解体は2022年度の計画であるが、現状と今後のスケジュールについて伺う。
- (2) 平成29年度から令和元年度までそれぞれ2億5,000万円前後ランニングコストが削減されているが、令和2年度はどれくらい削減されているか。
- (3) 平成29年度から令和2年度までの総延べ床面積はどのように推移しているか。
- (4) 現在までの延べ床面積削減に最も貢献した施設はどこか。又、ランニングコスト削減が最も多い施設はどこか、それぞれトップ3を伺う。
- (5) 2026年度はコスト削減が2億5,000万円となる試算をしているが、その時点での総延べ床面積はどれくらいになるか。
- (6) 個別施設計画に基づき（60.407㎡）の縮減計画となっているが、ランニングコストはいくら削減になる予定か。

一般質問発言通告要旨

通告者 14番 真崎 寿 浩

1 安心安全なまちづくりについて

静岡県熱海市での土石流災害を受けて、国では盛り土の全国調査を行い、盛り土が行われた可能性がある箇所を洗い出し、8月をめぐりに関係省庁や自治体に提供するとのことだが、その結果については公表されたのか。公表されたとすれば、仙北市における内容はどのようなものなのか。そして、どのような対策を行うのか。

また、仙北市においては、盛り土がなされていない場所でも、急峻な地形により、異常気象による豪雨等に対応しきれない危険な場所は多数あると認識しているが、その対策は万全なのか。

地域における安心安全なまちづくりに関する要望事項等について、その対応は万全なのか。財政的な制約もあることだが、対応方について、見解を伺う。

2 神代地区全域の水道計画について

先般、仙北市水道事業基本計画（R3～R12）が策定されたが、神代地域において計画から除外された地域への対応については、どのように考えているのか。また、年度ごとの工事の進捗状況や整備の見通しについて、住民に対し具体的に示す必要があると思うが、見解を伺う。

一般質問発言通告要旨

通告者 13番 伊藤邦彦

1 市道西明寺・神代線について、お伺いする。

上記同線は小渕野字宮田地区の十字路交差点から西明寺小学校までのおよそ2.4km区間を示すが、地域住民また各団体からの強い要望に対し、任期間近となる門脇市長は、どのような道筋をつけてご勇退されるのか、以下の4点につき、お伺いする。

- (1) 子供達が登下校時間帯での車の速度制限を設ける。
- (2) 運転者に注意喚起の上でグリーンベルトの付設。
- (3) 大きい法面箇所は拡幅とガードレールの設置。
- (4) 国道105号線との交差点に横断者用の信号機の設置。

2 スクールバスの運行について、教育長にお伺いする。

西明寺小学校学区でのスクールバス利用学童は、今現在八津集落以北9名と伺っている。以前、私が知っている頃のスクールバス利用は、家から学校まで4km以上の子供達が利用できたと記憶している。

私が思うに、こうした距離的定めは設けず全ての子供達を乗車させ、たとえば、学校1km手前で下車させ歩かせる、はどうか！！

今、子供達は体格はあっても体力がない、と言われる。

一般論ではあるが、子供達が育つ、育てる課程で心に体に一定の負荷をかけないと強い子も、健康な子も育たないと思える。

また、スクールバスを利用できる、できないの保護者の負担のアンバランスはどうか…？ 大事に大事に… 大切に大切に… でいいのか？ ご一考の余地はないか、お伺いする。

一般質問発言通告要旨

通告者 6番 熊谷 一夫

1 奨学金返還助成事業の推進で、若者の雇用確保と経済の活性化を！

奨学金返還助成事業は、「あなたの奨学金を（最大）全額肩代わり！」と銘打って、政府の内閣官房まち・ひと・しごと創生本部を窓口にして昨年6月から運用開始されている。地域内に一定期間居住、特定の業種に一定期間就業したなど、地方公共団体ごとに定められた要件を満たす方の奨学金の返済を推進する取り組みを支援している。奨学金の返済支援に使った分の市町村の負担分を国が財政支援するというものである。（一般財源負担額の2分の1の特別交付税制度）

本市では、仙北市育英奨学基金で【ゲットバック推進仙北市育英奨学資金補助事業】を平成28年度から行なっている。

(1) 本市の育英奨学金とゲットバック推進仙北市育英奨学資金補助事業の現状について伺う。

- ①仙北市育英奨学資金の最近の利用人数（大学・高校）と滞納者の人数、金額
- ②ゲットバック補助事業の利用人数と金額
- ③今後の利用推進施策と財源基金確保

(2) 国からは、対象要件を見直し、特別交付税対象経費を2分の1から10分の10に拡充、更に、現在の大学生等を高校生等に加えられ支援対象者が追加される。又、この制度の広報経費も対象となるので、しっかり活用できれば、地方で活躍する若者支援の観点から、奨学金で学んだ若者が、高校・大学を卒業して仙北市に戻ってきて働き、市の経済も生産人口も上がり、奨学金も返済でき財源確保もできる。この奨学金返還助成事業を本市のゲットバック補助事業と比較検討をして推進する事を提案するが当局の見解を伺う。

(3) 今年4月から、優秀な人材の確保や福利厚生目的として、日本学生支援機構の奨学金について、企業が社員に代わって機構に直接返還できる、企業による代理返還制度も導入されている。しかも、返還支援した金額は法人税法上、損金算入できる。その企業はホームページでの名前の掲載や求人の宣伝・PRにも活用できる。利用企業は8月1日現在、119社に上り、中小企業も多い。社員・企業の双方にメリットが大きいので、是非とも地元企業への働きかけを若者をこの仙北市に定着させるためにも行なっていたいただきたいがどうか伺う。

2 コロナ禍でのICT教育「誰一人取り残さない学びの教育を！」

昨年6月定例会の一般質問で、GIGAスクール構想と「小・中学生一人1台の端末を！」と質問した。早速、今年度市内全小・中学校に配布していただきありがとうございます。その時に、コロナ禍だからこそオンライン・ICT教育が必要と訴えさせていただいた。

先日、文科省情報教育・外国語教育課の今井課長、GIGA スクール構想のリモート講演の中で、「目指しているのは誰一人取り残さない学びです。『オンラインなら授業を聞きたい』という不登校や病気で通えない児童生徒にも大変意義があると思います」と強調し、各学校現場での取り組みも紹介していた。

そこで、本市の ICT 教育の現状と活用について伺う。

- (1) 自治体の中では、タブレットを市の備品としての取り扱いを重要視するあまり“自宅持ち帰り”をさせない学校も多いと聞く。これでは、折角の一人1台の端末がただの「ハコ」になってしまう。本市での実態はどうか伺う。
- (2) 本市の ICT 教育はどこまで行われているか。(対面とタブレットのハイブリットも含めて)
- (3) 教科書をそのままデジタル化している教材もあり、教員のプリント印刷時間や配布時間等の事務負担軽減にも効果があるが、現場での教諭の方達の取り組みと反応はどうか。

3 第二次仙北市総合計画実施計画「誇りある暮らしをつなぐまち」について

- (1) 若者が未来に夢や希望を持って暮らしていけるまちづくりに、出会い・結婚は欠かせません。第二次仙北市総合計画では、移住・定住策を計画している。
そこで以下の点を伺う。
 - ①出会い・結婚事業費で年間 381 千円の具体的な内訳について
 - ②以前に内陸線を活用して「お見合い列車」のような事業があったが、その事業の成果とその後の結婚・定住につながった件数、人数について
 - ③本市の年間婚姻数と目標値について
 - ④今後の出会い・結婚事業の具体的な施策について
- (2) 移住・定住政策で、仙北市内でのテレワーク・ワーケーション件数を増やし、定住人口の増加を目指していることについて伺う。
 - ①年間定住人口の目標件数と人数、5年間ではどの位の増加
 - ②テレワーク・ワーケーション人口の仙北市定住への具体的な取り組みと全国への発信方法は
 - ③年間予算計画と費用対効果は

通告番号 5

一般質問発言通告要旨

通告者 17番 稲田 修

- 1 門脇市政の3期12年間を顧みたとき、感慨深いものがあると推測されるが、これまで門脇市政を推進するにあたり、誠心誠意支援されてきた関係者に対する思いを伺う。
- 2 門脇市政は公約を通して展開されてきたが、この12年間において、有形、無形を問わず、市民に対して何を残すことができたか分析されているのか、伺う。

一般質問発言通告要旨

通告者 11番 荒木田 俊一

1 ふるさと就職応援金及び雇用促進助成事業費補助金について

- (1) ふるさと就職応援金は一度きりの単発であり県外等から仙北市の企業に就職しようとする選択肢として魅力あるものになっていない。制度をもっと拡充すべきではないか。
- (2) 県外からスキルの高い人材を呼び込み企業の競争力向上にも対応できる制度設計がないと県内他地域との競争にも置いていかれると思うがどう認識しているのか。
- (3) ふるさと就職応援金、雇用促進助成事業費補助金にアパートや戸建ての賃貸に対し、個人もしくは雇用企業に住宅費の支援は出来ないのか。

2 医師等修学資金貸与事業について

- (1) これまでの運用経過（職種内訳、人数等）はどうなっているのか。
- (2) 実際仙北市に就労した実績はどうなっているのか。
- (3) 仙北市に就労しなかった事案があったようだが今後の対応策をどの様にしたのか。
- (4) 施行規則に申請書の提出期限は毎年市長が定めるとなっているが、はっきりと定めると何か不都合があるのか。

3 農業政策について

- (1) 県は農業法人の支援について規模に係わらず支援してきたものを売り上げの規模で差別化を図るといふ動きがあるようだがどうなのか。
- (2) もしあるとすれば現在も法人があるが、これから立ち上がる法人もあると思うがこの動きに対応できるよう指導は出来ているのか。
- (3) 県営圃場整備事業ともリンクする課題と思う。また市の農業の発展にも影響する課題でもあるので取組を強化していただきたい。

一般質問発言通告要旨

通告者 15番 八柳 良太郎

1 観光資源の活かし方について

この10月末をもって退任される市長には3期12年大変な思いをされかじ取りをされてきたと思います。その労苦に対しまずは感謝申し上げたいと思います。

市長は市のスローガンともいうべき「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市をめざして」頑張ってきたと思います。

3期にわたり観光施策についてはかなり頑張ってきたと思います。

平成23年に発生した東日本大震災の傷跡がようやく癒えてきたかという時点で昨年3月突如コロナ感染症が拡大し仙北市経済に重くのしかかって出口の見えない状態にいる。

今もって合併が観光になんら貢献していないというかたも根強くおられます。

市の発展に尽力された市長は観光産業に対し、常々「観光資源を活かしきれてない」と答弁されてきました。

昨年3月からのコロナの影響は経済に甚大な被害を及ぼしながら延々と続いています。

8月2日発令された緊急事態宣言は東京都、沖縄県から4府県追加され、8月31日まで延長されました。まん延防止等重点区域は北海道などの5道府県に加え福島など8県が追加されました。

本県でも8月11日13人の感染を発表県知事が不要不急の県外移動を控えてほしいとのメッセージを発信、警戒レベルも4になりました。武家屋敷は今までみたこともない閑散とした状態です。

- (1) まず観光資源を活かしきれてないとの発言をたびたびお聞きしますが、活かしきれない観光資源とは何をさしてるのか。その観光資源を活かすのにクリアする課題はなにか。12年の蓄積からおしらせ願いたい。

観光産業全体の底上げと不公平是正の観点から私なりの分析をしてみました。

当市の観光業界の宿泊業、飲食業、土産品販売業と分類し調査をしてみました。

	観光業態		実施	宿泊	飲食	土産品	プレミアム感
1	令和2年プレミアム宿泊券	7月?~	県	○	○		2500円で5千円券購入
2	令和2年プレミアム飲食券	7月?~	県	○	○		700円で千円券購入
3	令和3年プレミアム宿泊券 第1弾	2/24~3/8	県	○			2500円で5千円券購入
4	// 第2弾	4/1~4/12	県	○			2500円で5千円券
5	令和2年宿泊支援事業プレミアム券	7/4~9/30	市	○			県発行プレミアム券1枚に3千円補助

6	令和2年観光地創生事業プレミアム券	7/2~11/30	県			○	500円で千円券購入
7	令和2年GoToEat秋田御食事券	2年10月~3年11月	県				4千円で5千円券購入
8	令和3年プレミアム観光券	1/27~3/21	市	○	○	○	
9	令和3年まるごとお土産券	7/22~11/30	県			○	3,500円で5千円券購入

宿泊業については度々行われている1番、3番、5番と県のプレミアム券事業にはすべて参加できたし、本市での2年の7月から9月まで更に一人3000円の補助事業46,322人分138,966,000円の事業を実施した。大変な支援となったと思う。

飲食業は2年の県のプレミアム券や3年のGoToEat事業も参加できるし、2番、6番、7番、8番、9番まで参加できるのでこれも又大変な支援だったと思う。

これに引き替え、観光土産店は8番の1月からの事業もありますが、8番は季節外れの冬なのでほとんど恩恵なく、6番、9番の事業しかない。

- (2) 土産品業界は客は主に県外客です。規模を別にすると、県外客が圧倒的であるという意味では宿泊業が受けている打撃と同じようなものと思われるので県事業の宿泊業の範疇に加えてもらうのが妥当だと思いますがいかが考えるか伺う。

そんな中、今年の「田沢湖・角館まるごと仙北市プレミアムお土産券」(仙北市プレミアムお土産観光支援事業)は7月22日から11月30日めざしてスタートしました。

外町の土産店は昨年と比較して「県外客は昨年より少ない。」又ある店は「うちは県内客が比較的多いが、今年は県内外共に昨年より更に少ない」、内町の店は「武家屋敷を訪れる客は昨年より多いのではないか但し購買金額はるかに少ない」と客数についての判断は割れているが、昨年より確実に売り上げは少ないようである。

昨年は7月22日~25日で総額3000万円の券が完売しました。

雲泥の差がありそうです。

- (3) 今年はどうなっているのか。直近の資料をお知らせ願いたい。

目標1億円1000円券100000枚について、購買人数、売上枚数はいくらか。

県内客、県外客の比率についてお知らせ願いたい。

業界の今後の取組の参考として資料がある。昨年の県から委託を受けた6番の観光地創生事業の県外客の人数、金額の比率をお知らせ願いたい。

- (4) 参加事業者、観光協会組合員数、観光協会以外の事業者、合わせて何業者か。

下の空欄を埋めて答弁としてください

地区	田沢湖	西木	角館	計
対象事業者数	社	社	社	社
参加業者数	社	社	社	社
参加率	%	%	%	%
販売実績	万円	万円	万円	万円

11月30日まで予算を活かせるように次の点を要望したいがお答え願いたい。

- (5) 外町では西宮家が3時頃で販売が終わるのは早すぎる。せめて4時半までは販売してほしい。西の宮家で出来ないのなら駐車場で観光協会が出張販売してはどうか。
- (6) チラシを持ちながら店に来るが、内容をわかってない。「そんなお得なチラシだったの」「もう買ってきたわ」「残念だわ」お客さんにチラシを渡す人が丁寧に内容を説明してもらえばもっと利用してもらえるのでは。この点周知徹底出来ないかという意見があるがどうか。

例 武家屋敷駐車場 各小売店等

2 観光産業の中の物産販売増強について

資料1 平成28年度実績比較

公共施設名	仙北市立角館町樺細工伝承館並びにふるさとセンター	仙北市西木町農林水産物直売食材供給施設
開館	昭和 53年	平成 12年
出店者 出資金	協同組合角館町物産協会 19人 1口5万円×274口 1,370万円	むらっこの会 会員 47人×5万円 年会費 47人×5千円 他に準会員22人
休館日	12月28日～1月4日	毎年12月～3月まで
売り上げ	伝承館 27,328,000円 物産協会へ 25～33% (平均28%7,651,840円) 出展者19人へ 69～61% 市会計へ 6% 計100%	35,952,774円 むらっこの会へ 18% (6,471,499円) 出展者69人へ 82% 計100%
市に払う経費	売り上げ額の6% =1,639,680円	電気代 246,800円 電話料 80,718円 下水使用料 419,040円 計 746,558円
伝承館建設時の採納寄付	樺細工問屋会 1000万円 樺細工製作者協会 500万円	

- (1) 同じ仙北市で物産を販売しこの地域の活性化を図っているのに負担に余りに差が出ているのはなぜか。
- (2) むらっこの会のここ4～5年の決算状況はどうなっているのか。
- (3) 物産協会は通年観光をめざして採算の合わない11月から3月までの5ヶ月営業して公共施設内で唯一冬期の営業をしていると思う。「むらっこの会」も冬場も開いて、そろそろ通年観光をめざして挑戦するように指導すべきでないか。
- (4) 下記の資料2は少し古くなっているが、無料ないしかなり低額である。脱退したい方が見込まれるようになってきた。

物産の拠点が思わしくなくなってきたということでもあります。

家賃を見直し物産協会に対し負担を軽くして多額の累積赤字から抜け出せるようにすべきではないか。

(5) 条例で6%となっているがその根拠についてわかりやすく説明を伺いたい。

発足から40年以上たっているし現在ではこの根拠はなりたたなくなっていると思われる。

資料 2

施設名		調査日
鹿角市 アントラア	(株)鹿角物産公社に指定管理料200万円を払い更に屋台収納館の収入も指定管理者に入金される	H30.8.1
天童市将棋資料館	物産協会に指定管理者制度適用。部屋代はとらないかわり収益の30%を市に払う	H23.5.23
奥州市伝統産業会館 キューポラの館	奥州鋳物交流センター使用料年間65万円	H23.5.23
蔵王町伝統産業会館 みやぎ蔵王こけし館	当初200万円だったが、景気の落ち込みに合わせ50万円に減額。	H23.5.23

一般質問発言通告要旨

通告者 5番 高橋 豪

門脇市政 12 年の検証と今後の仙北市の在り方について

先般、門脇市長は本年 10 月の任期満了をもっての退任を表明し、6 月定例会の一般質問においても同様の答弁をしているが、これまで 3 期 12 年間の様々な取り組みについて検証し、仙北市の今後の在り方についても伺いたい。

1 所得向上政策と雇用確保対策

仙北市の豊富な資源を活用し、市民所得を 10%以上高めるため、農業振興と 6 次産業化や観光ブランドの構築による外貨獲得、企業誘致など様々な取り組みが行われたが、それらの成果についてはどのように分析しているのかについて問う。また、ドローン、自動運転、玉川温泉での水素生成などの取り組みについて、これまでの成果と今後期待する展開を伺いたい。加えて、市では近未来技術実証ワンストップセンターも設置し、こうした取り組みを加速しようとしているが、現在のところこれがどのように機能しているのかも併せて伺う。

2 若者の定住促進、子育て支援、雇用の確保

若い方々の働く場の確保や所得の向上、定住と子育てに関する支援などについても、多くの取り組みがあった。これまでの内容について総括し、その成果について伺いたい。一方で、現在も人口減少と少子高齢化は進行しており、更なる手当が必要と考えるが、現在進行形の政策も含め、仙北市に必要な取り組みについてどのように考えるのかについて伺う。

3 行財政改革の進捗

ふるさと納税は非常に好調である一方で、市の財政硬直化は以前から課題となっている。抜本的な改革が必要である旨は議会でも議論となっているが、門脇市長がこれまで実施してきた財政改善策についての具体的成果について伺いたい。市税収入を増加させることは、コロナにより大変厳しくなる一方であり、また、国・県の予算も限られる中、住民生活にとって絶対に必要な事業の実施さえも今後一層厳しくなるものと思われる。行政コストを見直し、効率化を図り、財源をねん出していくために、これまでの取り組みを踏まえ、今後何をどう取り組むべきと考えるのか展望について伺う。

4 コロナ対策とコロナ後の仙北市の在り方

新型コロナへの対応は市を挙げて取り組んでいる中ではあるが、コロナにより落ち込んだ経済対策は急務である。観光地である仙北市では、ホテル、旅館業、飲食業を始め、それに関連して多くの事業者が苦境に立たされている。現在実施中の取り組みもある中、

更なる対応を求めたい。また、市では、スーパーシティ構想やサテライトオフィス誘致などコロナ後を見据え着手しているものもあるが、それらも含め、今後についてどのような展望を描いているのかを問う。